

# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 ( 広島県離島航路確保維持協議会 離島航路運営費等補助事業)

## 備後商船(株) (常石～尾道航路)

○島の概要 ・百島(人口361人 238世帯 高齢化率 67.5%) ※令和6年9月30日現在  
 【主な産業】農業(就業者全体の5%)  
 【島内交通】尾道市が運行する「百島バス」があり、航路の乗り継ぎを考慮したダイヤとなっている。  
 【主な施設】幼稚園(休園中)、小学校(休校中)、中学校、診療所、宿泊施設

○事業概要 ※常石～福田(百島)～満越～歌～戸崎～尾道間を1日9往復運航 ※使用船舶：2隻(フェリー1隻、旅客船1隻)  
 ①航路の特性 ・本航路は本土と百島を結ぶ唯一の交通手段であり、百島住民をはじめとする旅客輸送のほか、生活必需品等の輸送を行う生活航路である。  
 ②航路の現状 ・老朽船「ニューびんご」代替建造について、航路経営診断及び令和2年11月の航路改善協議会における結果報告を受け、新造船建造を決定。令和3年5月に造船契約の調印、同年10月進水、11月に完工引き渡しとなった。

### 定量的な目標・効果

年間運航回数3,636回の現状を維持し、離島住民の生活の安定及び向上に資する。

### 事業実施の適切性

荒天等により欠航が一部生じたが、事業は概ね適切に実施されている。

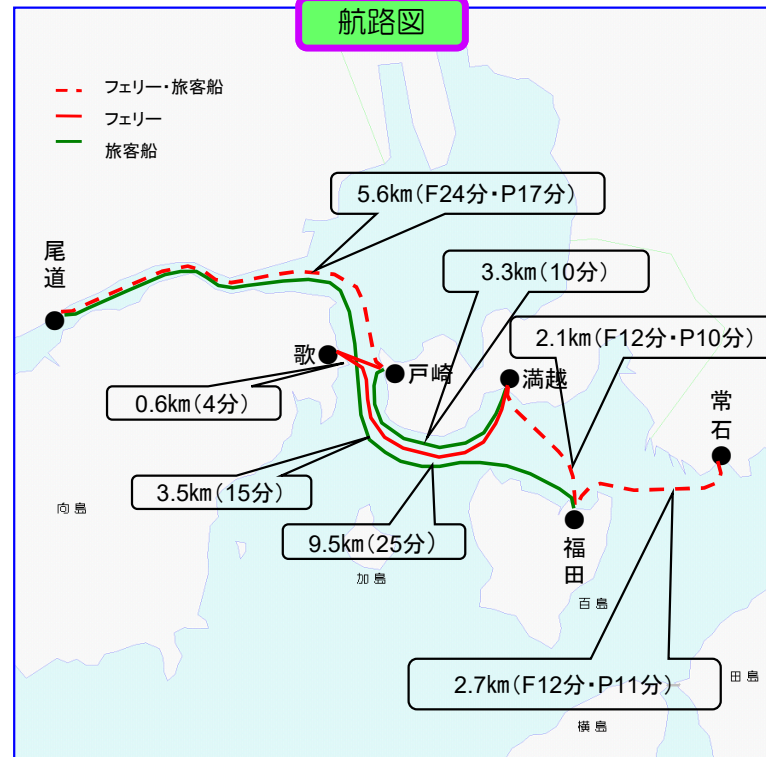
### 目的・効果達成状況

目標である前年レベルの運航回数を概ね確保したが、荒天等のため欠航が一部生じた。(年間目標3,636回、令和6年度運航回数3,630回、欠航20回)

### 事業の今後の改善点

ダイヤ改定に向けて、利用者(百島島民)、中国運輸局、広島県、尾道市、その他関係者が参集した「航路改善協議会」で現行のサービス基準の見直しを行い、利用実績に即した効率的な運航ダイヤ改定を目指す。

### 航路図



# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 （広島県離島航路確保維持協議会 離島航路運営費等補助事業）

## 大崎上島町（白水～契島航路）

- 島の概要
- ・生野島（人口12人 8世帯 高齢化率 83.33%） ※令和6年9月30日現在  
【主な産業】農業（柑橘、ブルーベリー栽培）  
【島内交通】公共交通なし  
【主な施設】教育施設、医療施設なし
  - ・契島（人口24人 19世帯 高齢化率 0%）・・・島全体が民間会社の所有地  
【主な産業】鉱業  
【島内交通】なし  
【主な施設】医療施設、教育施設なし

○事業概要 ※白水～生野島～契島間を1日7往復運航 ※使用船舶：1隻（フェリー）

- ①航路の特性：本航路は、白水（大崎上島）と生野島、契島を結ぶ航路である。契島は本土へ向けて他航路があるが、生野島は大崎上島と結ぶ唯一の航路である。特に、生野島は無医地区であり教育施設もないため、通勤、通学、通院、買物等の日常生活に必要な航路である。
- ②航路の現状：離島である生野島は、高齢化に伴い利用者は減少している。平成27年3月に新造船が就航し安全性・効率性を確保した。

### 定量的な目標・効果

年間運航回数2,550回の現状を維持し、離島住民の生活の安定及び向上に資する。

### 事業実施の適切性

荒天等により欠航が一部生じたが、事業は概ね適切に実施されている。

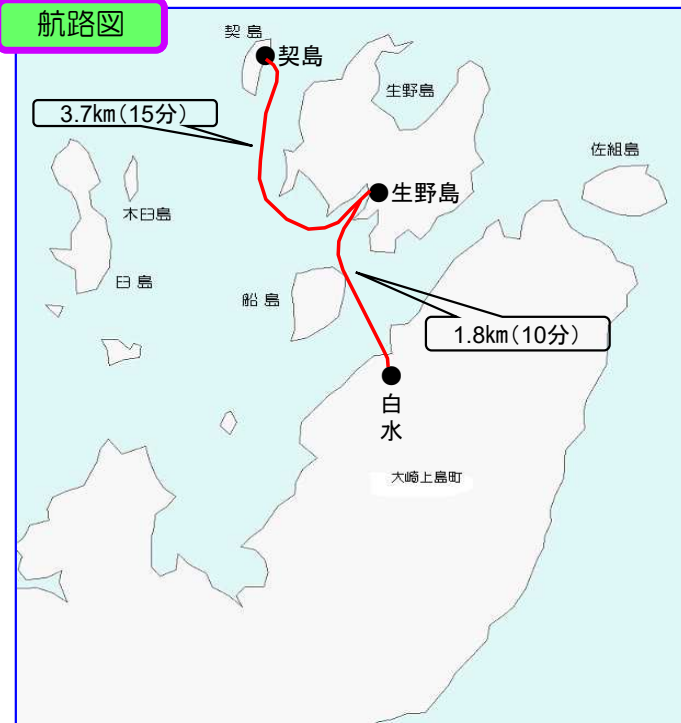
### 目的・効果達成状況

目標である前年レベルの運航回数を概ね確保したが、荒天等のため欠航が一部生じた。（年間目標2,550回、令和6年度運航回数2,502回、欠航48回）

### 事業の今後の改善点

島内人口が減少傾向にあるため、引き続き経費削減や、利用実態に即した運航形態へと見直しの検討を続ける。

### 航路図



# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 （広島県離島航路確保維持協議会 離島航路運営費等補助事業）

## 齋島汽船(株) (齋島～久比航路)

○島の概要 ・ 齋島（人口7人 6世帯 高齢化率 100.0%） ※令和6年9月30日現在  
 【主な産業】なし  
 【島内交通】公共交通なし  
 【主な施設】教育施設・医療施設・公共施設なし

○事業概要 ※齋島～大浜・豊島・立花～久比間を1日5往復運航 ※使用船舶：1隻（旅客船）  
 ①航路の特性 ・ 本航路は、大崎下島・豊島と齋島を結ぶ公益上必要不可欠な唯一の航路である。航路利用者は離島住民の通院、通勤、買物が殆どであり、その他観光客である。特に、齋島には医療機関がなく、島民は対岸の豊島及び大崎下島に通院、入院加療をしている。  
 ②航路の現状 ・ 運航には、多額の費用を必要とし、毎年、欠損額が生じている。このような状況の中で、事業者が単独で引き続き航路維持をしていくことは困難な状況にあり、その維持には公的支援が必要な状況にある。

### 定量的な目標・効果

年間運航回数1,821回の現状を維持し、離島住民の生活の安定及び向上に資する。

### 事業実施の適切性

荒天等により欠航が一部生じたが、事業は概ね適切に実施されている。

### 目的・効果達成状況

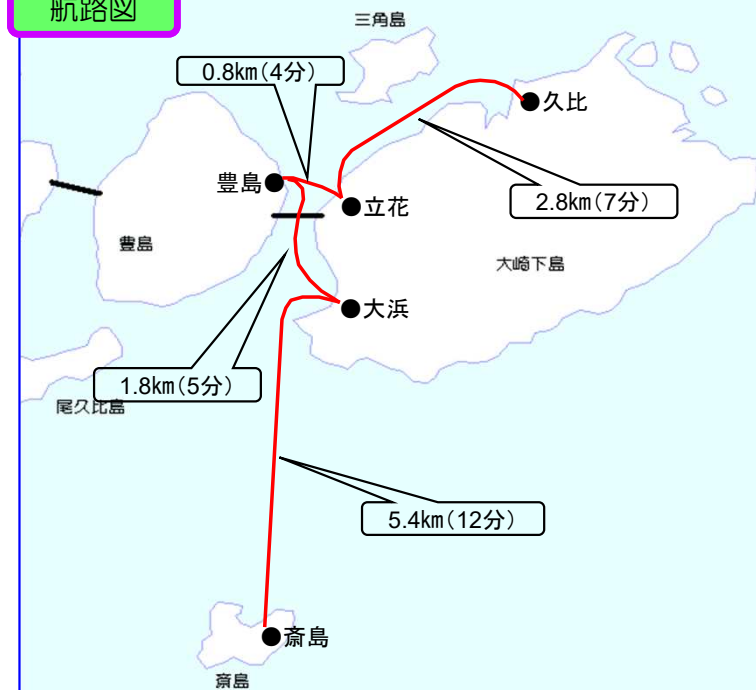
目標である前年レベルの運航回数を概ね確保したが、荒天等のため欠航が一部生じた。（年間目標1,821回、令和6年度運航回数1,764回、欠航57回）

### 事業の今後の改善点

人口減少等により収入の増加は見込めない中で、船舶の老朽化等により費用が増加していくことが予想される。

こうした中で、第三セクター等経営健全化方針（令和2年11月作成）に基づき、今後も安定的に齋島航路の運航を継続するため、経営改善に向けて、将来的な三角航路との統合に向けて検討を進めていく。

### 航路図



# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 （広島県離島航路確保維持協議会 離島航路運営費等補助事業）

## 斎島汽船（株）（三角～久比航路）

○島の概要 ・三角島（人口13人 10世帯 高齢化率100.0%） ※令和6年9月30日現在

【主な産業】農業（柑橘類栽培）

【島内交通】公共交通なし

【主な施設】教育施設・医療施設・公共施設・宿泊施設・レジャー施設なし

○事業概要 ※三角～久比間を1日5往復運航 ※使用船舶：1隻（フェリー）

①航路の特性：本航路は、大崎下島と三角島を結ぶ唯一の航路である。航路利用者の大半は三角島住民であり、島内に医療施設や小売店のない住民にとって、必要不可欠な生活航路である。また、みかん畑での作業用車両や出荷車両等の運搬を本フェリーにより運搬している。

②航路の現状：本航路の利用の大半を占める島内住民の減少及び高齢化、さらには近年みかんの生産農家が減る傾向にあることから、利用者のさらなる減少が懸念されている状況にある。

### 定量的な目標・効果

年間運航回数1,973回の現状を維持し、離島住民の生活の安定及び向上に資する。

### 事業実施の適切性

荒天等により欠航が一部生じたが、事業は概ね適切に実施されている。

### 目的・効果達成状況

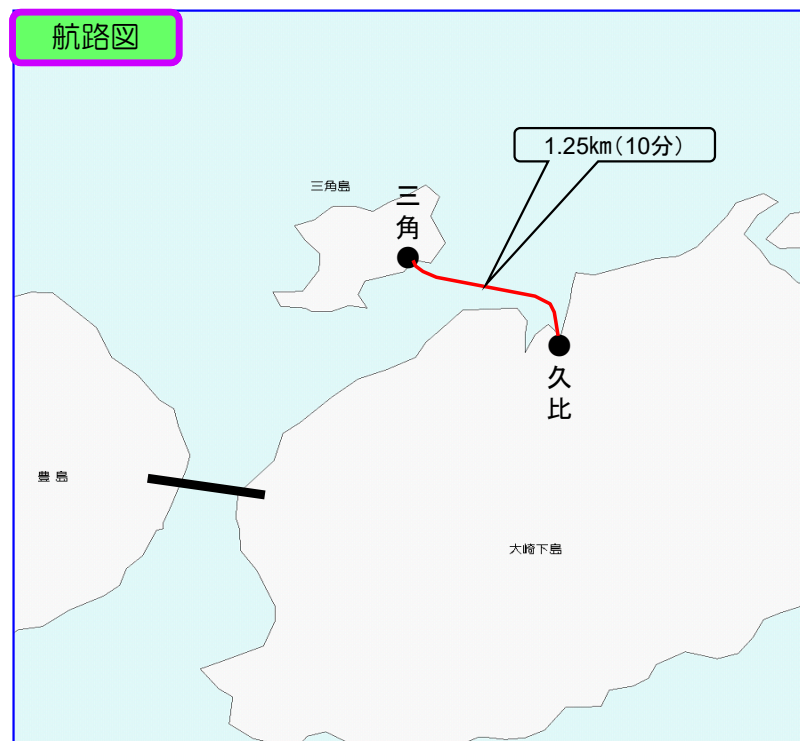
目標である前年レベルの運航回数を概ね確保したが、荒天等のため欠航が一部生じた。（年間目標1,973回、令和6年度運航回数1,956回、欠航17回、不定期運航回数2.5回）

### 事業の今後の改善点

人口減少等により収入の増加は見込めない中で、船舶の老朽化等により費用が増加していくことが予想される。

こうした中で、第三セクター等経営健全化方針（令和2年11月作成）に基づき、今後も安定的に三角航路の運航を継続するため、経営改善に向けて、将来的な斎島航路との統合に向けて検討を進めていく。

### 航路図





# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

## ( 山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業)

### 岩国柱島海運(株) (岩国～柱島航路)

- 事業概要 ・岩国～黒島～端島～柱島間を1日3往復運航 ・使用船舶：高速船1隻
- 離島の概要 ・柱島(人口107人 82世帯 高齢化率81.3%) 【主な産業】漁業、農業 【島内交通】なし 【主な施設】診療所、小中学校(休校中)
- ・黒島(人口13人 12世帯 高齢化率76.9%) 【主な産業】漁業、農業 【島内交通】なし 【主な施設】小中学校(休校中)
- ・端島(人口17人 15世帯 高齢化率70.6%) 【主な産業】漁業、農業 【島内交通】なし 【主な施設】小中学校(休校中)
- 当事業に係る目的・必要性

岩国～柱島航路は、柱島、端島、黒島の島民の通院等の移動手段として、また、郵便物や新聞等の生活必需品の輸送手段として、柱島、端島、黒島の島民137人の日常生活における唯一の公共交通機関である。島民人口の減少により旅客収入は年々減少している中、収入面においては、島内には観光資源が少ないながらもレジャー客誘致のための施策を実施し、支出面においては、船舶の小型化による関連経費の節減に努めているが、抜本的な収支の改善にまでは至っていない。しかしながら、当該航路は、高齢化(令和5年10月現在の高齢化率79.6%)の進む島民にとって、他に代替のない唯一の公共交通機関であることから、今後の島民生活のための重要性は変わらないものと考えられる。

#### 定量的な目標・効果

- ①レジャー客誘致の施策を継続し利用者の維持を図る。
- ②船費の節減等を図り収支を改善する。
- ③航路を維持し年間約13,000人の利用者を確保する。

#### 事業実施の適切性

荒天等により運航出来ない日があったが、事業は概ね適切に実施されている。

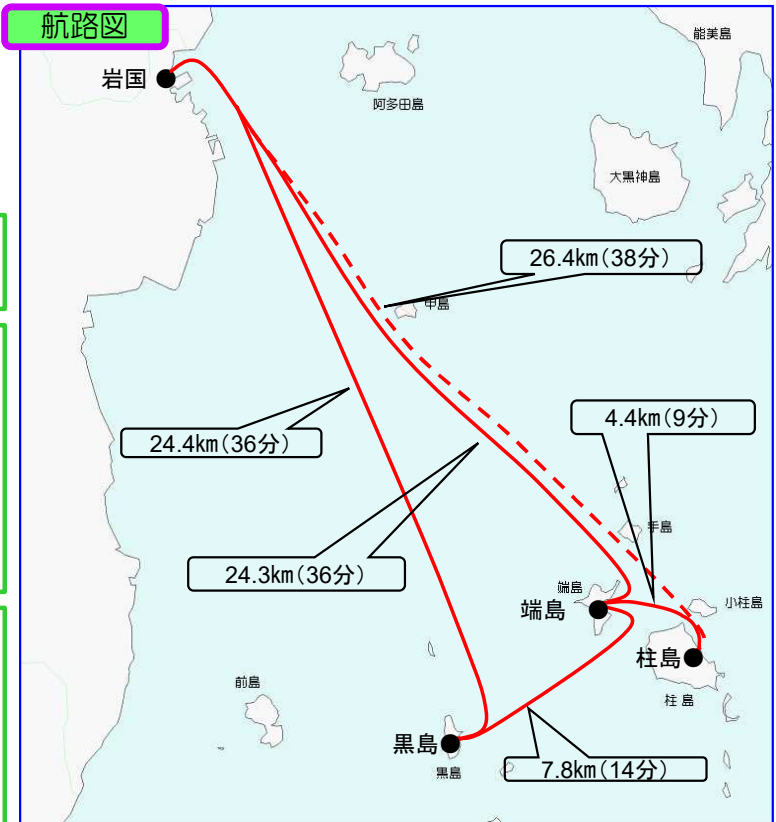
#### 目的・効果達成状況

- ①島民は減少したが、利用者は2年連続でわずかに増加した。
- ②軽油単価の上昇による燃料潤滑油費の増加はあったが、今年は退職金の支払いがなかったため船員費が減少し運行経費が減少した。
- ③年間13672.5人の利用者を確保した。(前年度比359.5人増加)

#### 事業の今後の改善点

船舶修繕費等の経費削減に努める。島の過疎・高齢化により島民が減少しているが、感染症対策を講じながら、島のイベント・レジャー資源等を活かし利用促進を図る。また、「柱島群島みどころマップ」の配布、Facebook等を活用して情報発信を継続する。なお、輸送量(年間利用者数)の目標値については、過疎・高齢化(高齢化率79.6%)の状況を踏まえ、より適切な数値を検討する。

#### 航路図



# 令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 （山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業）

## 周防大島町（樽見～日前三航路）

○事業概要 ・樽見～楽ノ江～江ノ浦～日前三航路を1日4往復運航 ・使用船舶：旅客船1隻

○離島の概要 ・浮島（人口175人 92世帯 高齢化率43.43%）

【主な産業】漁業 【島内交通】なし 【主な施設】小学校

○当事業に係る目的・必要性

浮島と日前三を結ぶ離島航路（樽見～日前三航路）は、他に島を結ぶ航路がない唯一の航路である。浮島には保育園や中学校が無いため、幼児と中学生は、毎日、本航路を利用して通園、通学している。また、本航路は離島住民にとって本土の病院への通院や通勤、買物等に利用するため、コロナ禍にあってもなくてはならない生活の足である。離島住民の高齢化率は43%、年々人口が減少し欠損が膨らんでいく状況の中で、自主財源に乏しい財政による欠損の補填が極めて困難であるため、航路維持のため支援が不可欠な状況にある。

### 定量的な目標・効果

- ①レジャー、観光客による利用者増を目指す。
- ②継続した体験交流型修学旅行の誘致を進め、利用者の増加を目指す。
- ③日常の整備点検を行い、船舶の長寿化・修繕費等の経費削減に努める。
- ④燃料購入は入札方式とし燃料代を抑える。

### 事業実施の適切性

荒天等によりやむを得ず欠航となった日を除き、概ね計画通りに事業は実施された。

### 目的・効果達成状況

- ①島外から乗船の問い合わせがあり、島民以外の利用はあったが、利用者は昨年度と変わらなかった。
- ②浮島での体験交流型修学旅行が中止となり、利用者の増加とはならなかった。
- ③日々の整備点検を確実にし、大規模な修繕はなかった。
- ④引き続き入札方式での業者決定を行い燃料代抑制に努めた。しかし燃料単価上昇のため昨年度に比べ燃料費が増加した。【利用者数】36,677.0人、対前年0.5人

### 事業の今後の改善点

町のホームページやFacebook等を活用した情報発信を行う。また、日常の整備点検を確実に実施することにより、修繕費の削減に努め、乗客が安心して利用できる航路を目指す。

### 航路図



# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 （山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業）

## 周防大島町（伊保田～情島航路）

- 事業概要 ・伊保田～情島間を1日4往復運航 ・使用船舶：2隻（旅客船1隻、予備船：1隻）
- 離島の概要 ・情島（人口 32人 24世帯 高齢化率 81.25%）  
【主な産業】漁業 【島内交通】なし 【主な施設】小学校（H29.3.31休校）、中学校（H29.3.31休校）、児童養護施設（H29.3.31施設移転・島外へ）

### ○当事業に係る目的・必要性

情島と伊保田港を結ぶ離島航路（伊保田～情島航路）は、他に島を結ぶ航路がない唯一の航路である。本航路は離島住民にとって、本土の病院へ通院、通勤や買物等に利用するために、なくてはならない生活の足である。しかしながら、離島住民の高齢化が進み、離島人口が減少傾向にある中、欠損額が膨らんできているのが現状である。このような状況の中で、自主財源に乏しい町財政による欠損額の補填が極めて困難であるため、航路維持のため支援が不可欠な状況にある。

### 定量的な目標・効果

- ①釣り客を中心とした観光客数の増加を目標とし、欠損増加の抑制に努める。
- ②航路利用者の利便性に配慮しながら効率的な運航を行い燃料費等の費用負担の抑制を目指す。

### 事業実施の適切性

台風の接近や荒天等によりやむを得ず欠航、また、機関故障等により4日間の欠航となったが、概ね計画通りに事業は実施された。

### 目的・効果達成状況

- ①旅客運賃収入については、釣り客等の観光客の利用が増加したため、昨年度より6.7%増となった。
- ②燃料高騰により昨年度に比べ燃料費は若干増加した。  
【利用者数】5,469人（前年度比+333.5人）

### 事業の今後の改善点

島民の高齢化が進み、人口が減少傾向にある中、釣り客を中心とした観光客の集客に努めていく。1日4便での運航を継続し、航路利用者の利便性に配慮しながら効率的な運航を行い、燃料費等の費用抑制に努める。

### 航路図







# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 (山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業)

## 平郡航路(有) (平郡～柳井航路)

- 事業概要 ・平郡(平郡東・平郡西)～柳井間を1日2往復運航 ・使用船舶:フェリー1隻
- 離島の概要 ・平郡島(人口223人 166世帯 高齢化率76.7% ※令和5年10月1日時点)  
【主な産業】農業、漁業 【島内交通】なし 【主な施設】診療所、小学校、宿泊施設

### ○当事業に係る目的・必要性

島と本土を結ぶ唯一の交通手段としての航路で、島民の生活圏を確保するのに必要不可欠な生活航路である。  
主な利用客は、本土への通院、買物客である。また、自動車航送は、医療・福祉関係車両や島民廃棄物、し尿車両等の輸送が主である。

### 定量的な目標・効果

- ①年間運航回数730回を維持して島民生活の安定を図る。
- ②SNSで運行状況を発信し利用者利便性向上と利用の促進を図る。

### 事業実施の適切性

台風の影響や荒天等により、運航できない場合もあった。お盆及び年末年始の臨時便の運航を実施しなかったが、概ね計画通り事業が実施された。

### 目的・効果達成状況

- ①台風など荒天による欠航があったため運航回数は725回であった。
- ②SNSで運行状況の発信は利用者から好評を得ている。引き続き情報発信により利用の促進を図る。  
【利用者数】18203.5人(前年度比415人増)

### 事業の今後の改善点

島の過疎・高齢化に伴い、利用者が減少する中で航路を維持するために引き続き島の宣伝を行い、観光客、釣り客の誘致を図るとともに、地元関係者と協力し、島民関係者の利用促進に努める。

### 航路図



# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 （山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業）

## 熊南総合事務組合（馬島～麻里府・佐合島～佐賀 航路）

- 事業概要 ・馬島～麻里府～馬島～佐合島～佐賀間を1日5往復運航 ・使用船舶：旅客船2隻（うち予備船1隻）
- 離島の概要 ・馬島（人口24人 15世帯 高齢化率54.2%） 【主な産業】漁業 【島内交通】なし 【主な施設】レジャー施設
- ・佐合島（人口6人 4世帯 高齢化率100.0%） 【主な産業】特になし 【島内交通】なし 【主な施設】なし
- 当事業に係る目的・必要性

馬島は人口24人、15世帯。佐合島は人口6人、4世帯であり、近年の状況は過疎化及び高齢化が進むばかりでなく、社会的、経済的にも恵まれる状況にないことは明白である。利用客は大半が島民であり、利用する理由としては通院と生活物資の調達が主である。他の一般利用客としては夏の海水浴や釣り客、帰省客が挙げられる。当該航路は、平成18年10月1日より田布施町の馬島～麻里布航路と平生町の佐合島～佐賀航路が統合され、馬島～麻里布・佐合島～佐賀航路として運航を始め、事業の効率化を行ったところであるが、渡船経営は困難な状況であり、引き続き航路補助金の交付を必要とする状況にある。

### 定量的な目標・効果

- ①イベント等による利用者の増加に取り組む。
- ②年間利用者数17,000人を維持する。

### 事業実施の適切性

荒天の影響により、やむを得ず欠航となった日があったが、事業は概ね適切に実施された。

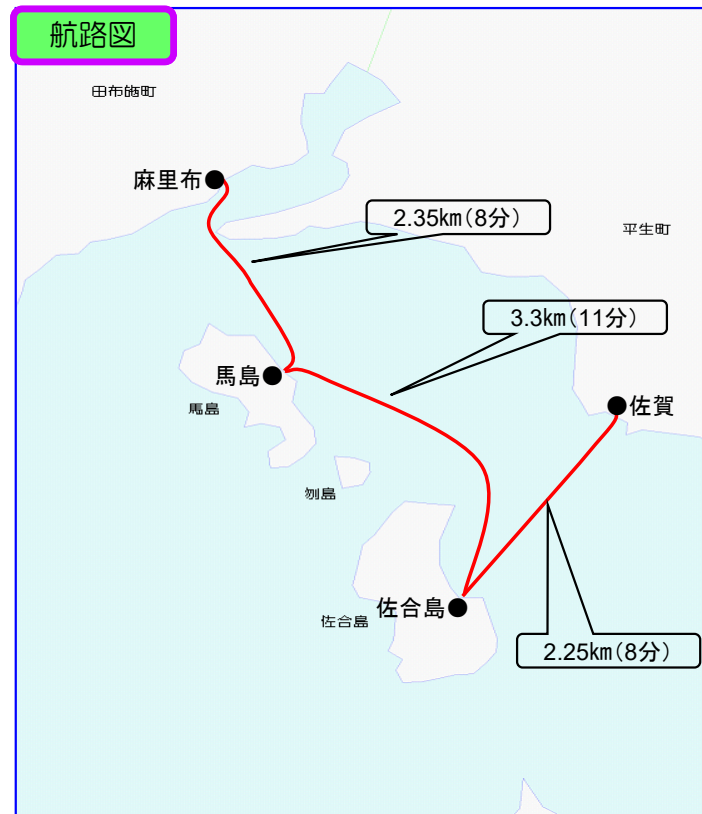
### 目的・効果達成状況

- ①イベント等により貸切運航回数は前年度と比べ増加した。
- ②旅客輸送人数は16,738.0人で、目標を262人と若干下回った。  
【利用者数】16,738.0人（前年度比-1,720.5人）

### 事業の今後の改善点

高齢・過疎化によって島民の利用者は減少しており、今後も学校行事や島でのイベント等の働きかけを行い、島への移住促進や交流人口の増加などにも協力を行うなど、利用者の増加を図る。

### 航路図



# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 ( 山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業)

## 牛島海運(有) (室積～牛島航路)

- 事業概要 ・室積～牛島間を1日3往復運航 ・使用船舶：旅客船1隻  
○離島の概要 ・牛島(人口30人 22世帯 高齢化率96.7%) 【主な産業】漁業 【島内交通】なし 【主な施設】診療所  
○当事業に係る目的・必要性

牛島と室積を結ぶ離島航路(牛島～室積航路)は、島民の生活を支えるためには、欠くことのできない唯一の交通手段である。島には、診療所はあるものの、平成29年4月より診療日が土曜日午前のみとなり、歯科等専門医への通院の足として、また、生活必需品全般の搬入手段として、他に依存することができず本航路の利用が不可欠となっている。しかしながら、離島住民は、漁業を生活の糧としているが、近年の漁業不振により若年者は高校卒業と同時に島外へ流出し、島の人口は年々減少し、島民の96.7%が65歳以上という高齢化が進み、人口の増加は望めず、航路利用者も減少しているのが現状である。このような状況の中で、収益の増加を見込むことは難しく、多額の欠損金はさげられないと考えられるため、事業者が単独で引き続き航路維持をしていくことは困難な状況で、その維持には、公的支援が必要な状況にある。

### 定量的な目標・効果

- ①目標利用者数6,700人/年を確保する。
- ②光市と連携のもと、島のPRや各種イベント開催等を通じた交流人口の増加策を図り、乗船客の増加に努める。
- ③修繕費については、定期検査を年1回とし、入渠時には船員を現場に派遣し、可能な作業を行う。また、簡易な点検、日常的な小修繕については、可能な限り船員で行い、経費節減に努める。

### 事業実施の適切性

運航計画1,095回のところ荒天等による欠航が53回あったが、概ね適切に実施された。

### 目的・効果達成状況

- ①令和6年度の利用者は6675.5人となり、目標利用者数を24.5人下回り、未達成となった。
- ②Facebookを活用した情報発信に努め利用促進を図った。また海の日協賛会との共催により、小学生を対象に一日船長体験を実施した。
- ③日常の小修繕などにより削減に努めたため、修繕費については減額となった。

【利用者数】6,675.5人(前年比-429.5人)

### 事業の今後の改善点

島の過疎・高齢化に伴い利用者が減少する中で、航路を維持するために、コミュニティセンターなど市関係機関との連携による不定期航路事業への取組みやFacebook等を活用した情報発信等により利用促進を図る。

また、経営健全化の観点から運賃改定に向けた検討を行うとともに、新船建造により、運航経費の削減に努める。

### 航路図



# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 ( 山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業)

## (有)野島海運 (野島～三田尻航路)

○事業概要 ・野島～三田尻間を1日4往復運航 ・使用船舶：2隻（旅客船1隻、予備船：1隻）

○離島の概要 ・野島（人口70人 50世帯 高齢化率74.2%）

【主な産業】漁業 【島内交通】なし 【主な施設】小学校、中学校、診療所、宿泊施設

○当事業に係る目的・必要性

野島・三田尻航路は、離島である野島にとって本土への唯一の輸送手段である。生活航路として、島民を中心とした旅客の運送はもとより、島内で必要となるあらゆる物資の輸送に不可欠な本航路を安定的に維持することは、島に住む人々の生活の安心安全を確保する上で、必要不可欠である。

### 定量的な目標・効果

交流人口の増加により航路利用実績の確保を図る。

### 事業実施の適切性

荒天等によりやむを得ず欠航となった場合があったものの、事業は当初計画どおり適切に実施された。

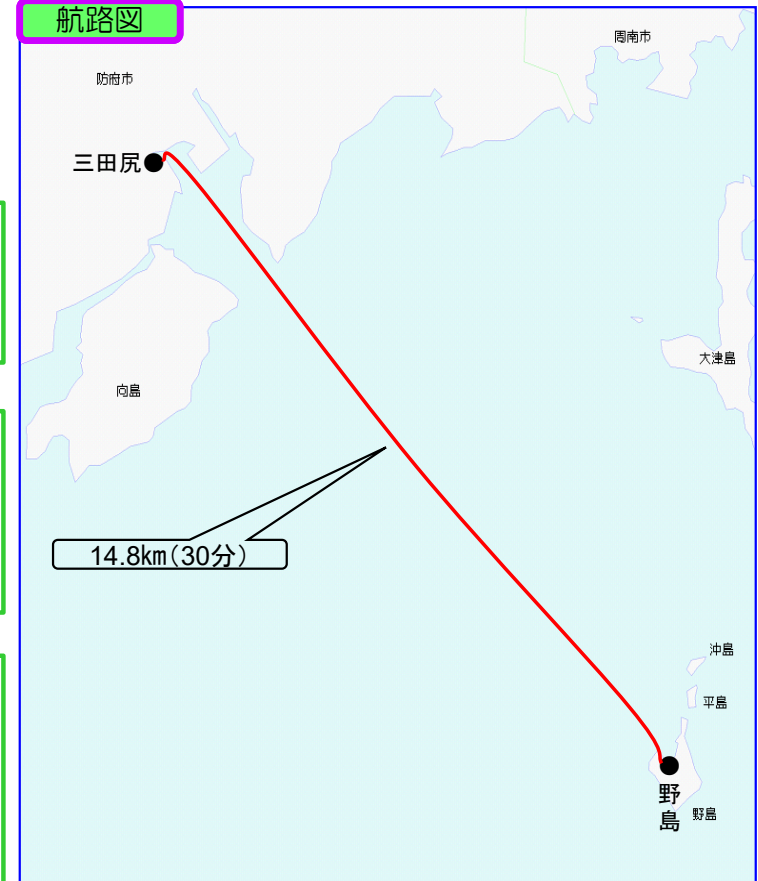
### 目的・効果達成状況

クルーズ事業の実施及び市離島活性化事業への協力により、利用実績増加へ寄与した。但し、島民利用者及び釣り客等の減少により、全体の利用者は減少している。  
【利用者数】27,233人（前年度比△4,276人）

### 事業の今後の改善点

高齢化の進行など離島の特殊性を踏まえながら、民間企業・市・航路事業者等が連携し、クルーズ事業の実施やイベント開催等により、交流人口の増加を目指す。  
また、SNSやホームページ等の活用により、広く情報発信することで、周知及び利用実績の拡大に努める。

### 航路図





# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 ( 山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業)

## 萩海運(有) (見島～萩航路)

- 事業概要 ・見島～相島～大島～萩間を1日2～4往復運航 ・使用船舶：3隻（貨客船1隻、フェリー2隻）
- 離島の概要
- ・見島（人口 640人 世帯 424 高齢化率 58.4%）【主な産業】農業、漁業 【島内交通】なし 【主な施設】保育園、小中学校、診療所
  - ・相島（人口 107人 世帯 58 高齢化率 73.8%）【主な産業】農業、漁業 【島内交通】なし 【主な施設】保育園、小中学校
  - ・大島（人口 577人 世帯 262 高齢化率 44.7%）【主な産業】農業、漁業 【島内交通】なし 【主な施設】保育園、小中学校、診療所
- 当事業に係る目的・必要性
- 【目的】島民や来訪者にとって唯一の公共交通機関として、島民や観光客等の旅客輸送や郵便物をはじめ、生活必需品、農産物などの物資の輸送を行っている。航路の経営状況については、恒常的に不採算となっており、加えて、過疎化による輸送人員の減少や減価償却費、燃料費等の増加に伴い、欠損額が増大している等、厳しさを増している状況である。これらの背景を踏まえ、見島～萩航路について、将来にわたって航路の維持・存続を図ることを目的とする。
- 【必要性】離島航路は、離島と本土を結ぶ唯一の公共交通機関であり、島民の生活維持・安定や離島の産業振興のためには欠くことができない、いわば離島の命運を決する生活生命線であることから、本事業の実施は、航路維持のために必要である。

### 定量的な目標・効果

- ①安全運航の確保
- ②船職員の資質の向上
- ③乗船客への親切な対応
- ④冗費の節約
- ⑤船舶の適正管理
- ⑥見島、相島、大島でのイベント協力
- ⑦広告宣伝による来島者の誘致

### 事業実施の適切性

事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。

### 目標・効果達成状況

①～③安全総点検や萩港保安対策総合訓練等、各種訓練の実施や再雇用したベテラン船員による若年船員への教育、HPによる情報発信により、安全運航の確保、職員の資質向上、乗船客への親切な対応が図られた。

④～⑤日々の点検を積極的に実施し、運航時のエンジン出力を抑えるなどの対策を講じたが、燃料費の高騰により、燃料費は対前年比103.90%となった。また、修繕費については相島航路船舶の更新及び見島航路船舶のドック費用減に伴い、修繕費は対前年比66.01%となった。

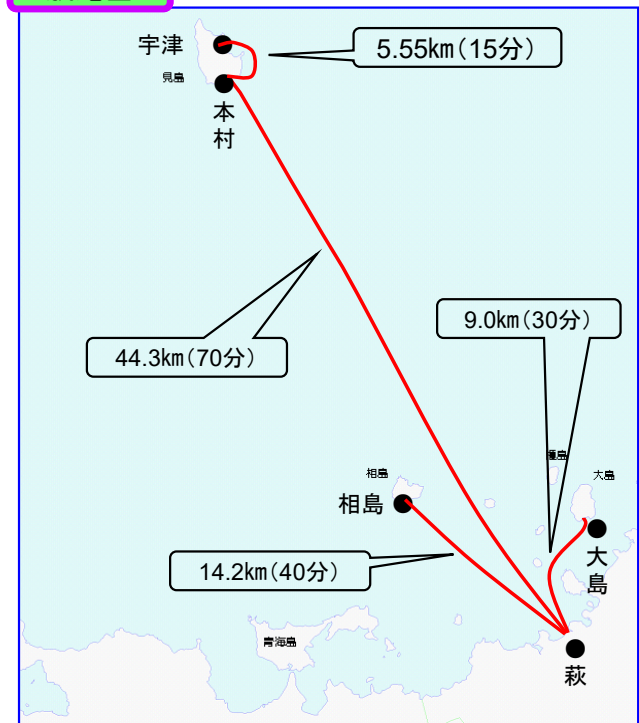
⑥～⑦各島でのイベントの多くが中止となったが、大島で実施されたイベントについては積極的に協力を行った。

【利用者数】120,166.0人（前年度比-2,045.5人）

### 事業の今後の改善点

原油価格・物価高騰の影響により、燃料費や修繕費の単価増加が予測されるが、引き続き可能な限り燃料費や修繕費の経費節減に努める。また、引き続き日々の点検を実施し、修繕費の抑制に努める。

### 航路図



# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

## ( 山口県生活交通確保維持改善協議会 離島航路運営費等補助事業)

### 大津島巡航(株) (大津島～徳山航路)

○事業概要 ・大津島(本浦・馬島・刈尾・瀬戸浜)～徳山間を7往復運航 ・使用船舶：3隻(旅客船1隻、フェリー1隻、予備船1隻)

○離島の概要 ・大津島(人口186人 138世帯 高齢化率79.6%)

【主な産業】農業、漁業 【島内交通】コミュニティバス 【主な施設】診療所、宿泊施設

○当事業に係る目的・必要性

大津島と徳山港を結ぶ離島航路(大津島～徳山航路)は、他に島を結ぶ航路がない唯一の航路である。本航路は離島住民にとっては、通院、通勤等において、なくてはならない交通手段となっている。大津島には、回天記念館や回天訓練基地跡など来館者の多い施設があり、島外からの観光や学習等を目的とした乗船客数もコロナ禍以前の状態に戻りつつあるが、離島住民の人口減等により旅客運送は今後も減少傾向が見込まれる。このような状況の中で、事業者が単独で引き続き航路維持をしていくことは困難な状況にあり、その維持には公的支援が必要な状況にある。

#### 定量的な目標・効果

航路改善計画に沿って、航路事業の安定的かつ持続的な維持及び存続に努める。

※第3次航路改善計画基本方針  
(令和4年3月策定)

- ①運航体制の見直し
- ②交流人口、観光人口の拡大
- ③安全で快適な航路利用環境の提供

#### 事業実施の適切性

荒天等によりやむを得ず欠航となった日を除き、概ね計画通りに事業は実施された。

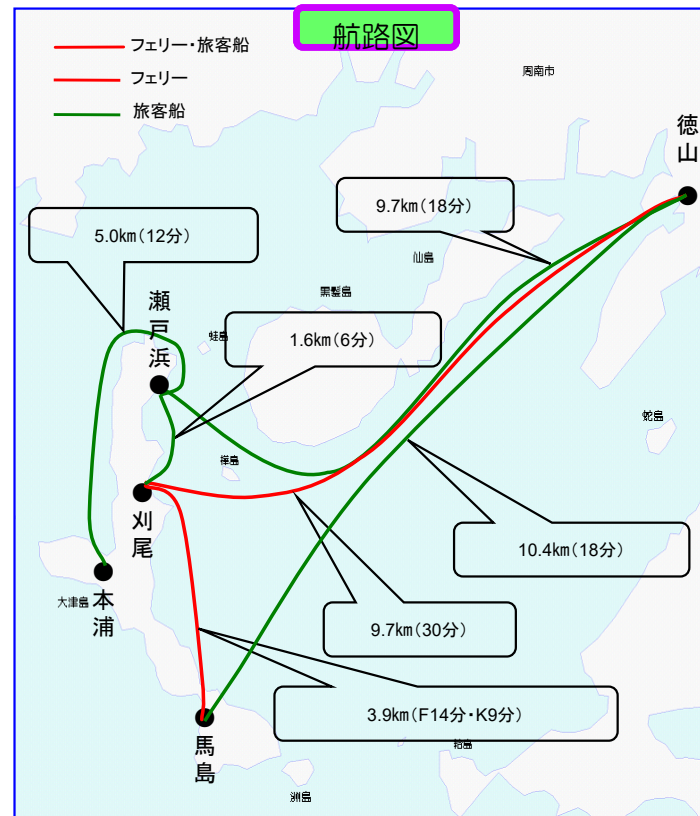
#### 目的・効果達成状況

航路改善計画に基づき、航路の維持確保に努めた。具体的な取り組みは以下のとおり。

- ・瀬戸内サイクルPASS導入によるサイクリング客の呼び込み
- ・ホームページやXでの情報発信
- ・効率的な運航体制の検討等 【利用者数】69,801人(前年度比+6,331.5人)

#### 事業の今後の改善点

島民の減少等により、旅客運送は今後も減少傾向が見込まれる状況であるが、航路の維持に向け、引き続き船費等の経費削減に努め、経営改善に取り組む。  
また、関係機関と連携し、新船建造や効率的な運航体制の構築に向けた検討を行う。  
併せてホームページやX等により積極的な情報発信に努める。



# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 離島航路構造改革事業に係る(岩国～柱島航路改善計画策定事業) の概要



## 岩国市の概要

- 平成18年3月に1市6町1村が合併
- 人口 12.5万人(令和6年10月現在)
- 面積 873.67平方キロメートル

## 岩国市柱島航路改善協議会の構成員

岩国柱島海運株式会社 中国運輸局海自振興部 山口運輸支局  
山口県 財務専門家 岩国市漁業協同組合 岩国市 地元自治会

## 航路の現状

- ・ 航路：岩国～柱島航路
- ・ 柱島(人口107人 82世帯 高齢化率 81.3%)
- ・ 黒島(人口 13人 12世帯 高齢化率 76.9%)
- ・ 端島(人口 17人 15世帯 高齢化率 70.6%)
- ・ 使用船舶：高速船1隻(予備船1隻)

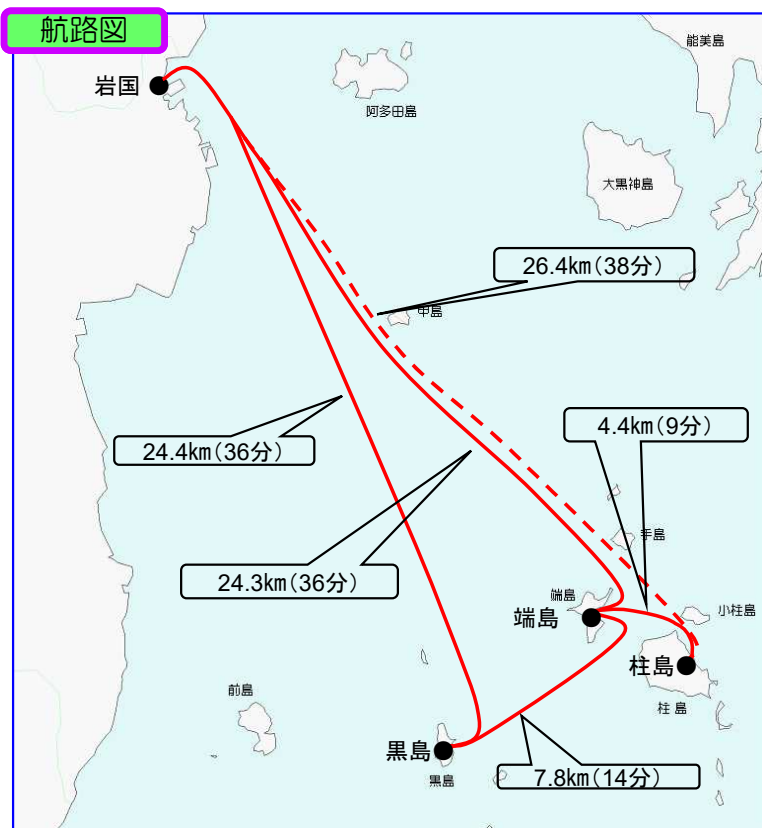
## 具体的な課題・問題点

- ・ 過疎化、高齢化による利用者の減少への対応
- ・ 船舶の老朽化による安全性の確保
- ・ 船員不足
- ・ 修繕費の増加などによる経常損失の増加

## 調査事業の実施

## 調査事業の概要

- ・ 地域の現状把握
- ・ 航路の現況把握
- ・ ニーズ調査(島民・利用者アンケート)
- ・ 将来の需要推計
- ・ 航路運航会社の概要、財務状況
- ・ 航路の課題と改善の方針
- ・ 航路改善に向けた施策事業
- ・ 事業実施スケジュール
- ・ 航路改善による収支の見通し



## 協議会における検討

- 協議会の開催状況 3回開催
- 第1回（7月8日）  
現況、課題、計画作成について確認
  - 第2回（12月20日）  
アンケート結果、計画素案の確認
  - 第3回（2月～3月）  
計画の承認 予定

## 地域住民の意見の反映

- 本年度10月に島民105人と利用者を対象にアンケート調査を実施し、島民70人、利用者69人の回答を集計（島民の回収率66.6%）。
- 令和7年1月25日に島民説明会を開催予定。

## 事業実施の適切性

- 事業が計画どおり適切に実施された。
- 航路改善計画策定に必要な調査ができた。

## 調査事業の結果の概要

- 高齢者率、人口減少の推移を調査し、今後の航路運航の将来像について把握した。
- 航路の課題を整理し、航路改善に向けた施策について検討した。
- 島民、利用者アンケートを実施し、ニーズの把握を行った。
- 経営診断を行い、航路運営について課題を整理した。



## 航路改善計画の計画策定 に向けた方針等

- 安全で安定した航路運航のため、老朽化した船舶の更新を行う。
- 地域おこし協力隊などと連携し、柱島群島のPRなどを行い、誘客を図る。



# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 離島航路構造改革事業に係る(平郡～柳井航路改善計画策定事業) の概要



## 平郡航路(有) (平郡～柳井航路)

○平郡島と本土を結ぶ唯一の交通手段で、島民の生活圏を確保するために必要不可欠な生活航路。主な利用者は、本土への通院、買い物客である。また、自動車航送は、医療・福祉関係車両や一般廃棄物、し尿車両等の輸送が主である。

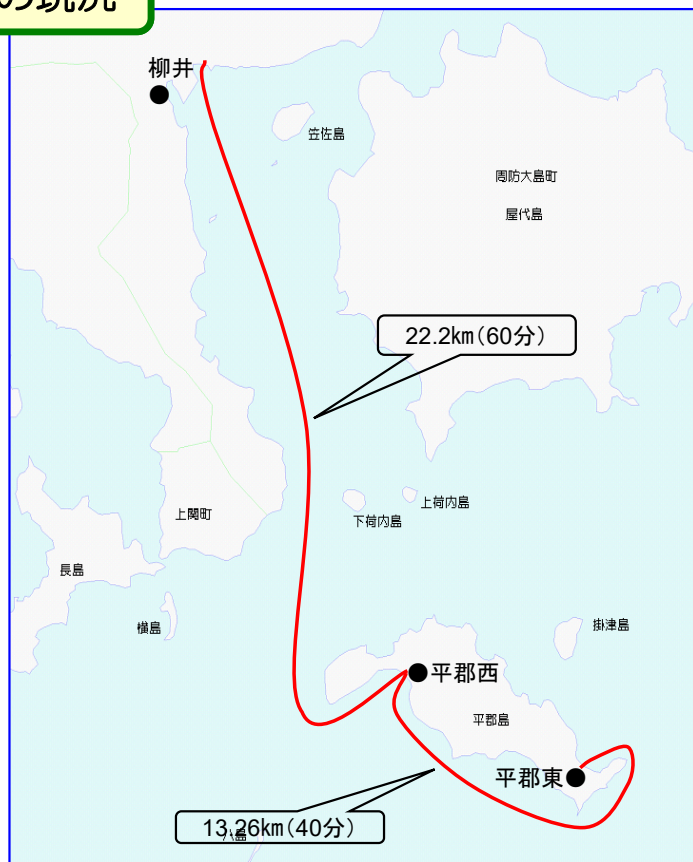
## 柳井市離島航路確保維持改善協議会の構成員

平郡東連合自治会、平郡西連合自治会、中国運輸局、山口県、財務専門家、柳井市、航路事業者

## 離島航路の現状

- 平郡～柳井航路 平郡（平郡東・平郡西）～柳井間を1日2往復運航
- 平郡島の概要 人口244人 183世帯 高齢化率75.8%（令和5年10月1日時点）【主な産業】農業、漁業【島内交通】なし【主な施設】診療所、小学校、宿泊施設

## 航路の現況



## 具体的な課題・問題点

- ・船舶の老朽化による修繕費の増加
- ・燃料費の上昇による費用の増加
- ・平郡島の人口減少による利用客の減少

## 調査事業の実施

## 調査事業の概要

- ・地域特性・社会動態の整理
- ・航路の運航・利用状況の整理
- ・航路経営診断
- ・アンケート調査・意見交換会
- ・航路改善計画の策定

## 協議会における検討

- 協議会の開催状況 3回開催予定
- ・第1回（6月27日）  
調査の進め方の確認
- ・第2回（令和7年1月予定）  
調査の進捗確認
- ・第3回（令和7年3月予定）  
航路改善計画の内容確認

## 地域住民の意見の反映

- ・平郡～柳井航路に関するアンケート調査実施。
- ・島民との意見交換会を行う。

## 事業実施の適切性

- ・事業が計画どおり適切に実施された。
- ・航路改善計画策定に必要な調査ができた。

## 調査事業の結果の概要

- ・住民、利用者アンケートを実施し、関係者の航路に係る意識を把握した。
- ・地域特性、社会動態を調査し、地域に関する課題を整理した。
- ・航路の利用状況、経営状況を調査し、平郡航路の経営に関する課題を整理した。



## 航路改善計画の計画策定に向けた方針等

- ・これまでの調査結果を踏まえ、経営改善に資する航路及び島の活性化に係る方策を検討する
- ・代替船の建造を重点施策とし、使用船に求められる役割を整理したうえで、船体の大きさ、定員、搭載車両数、必要な設備を取りまとめる。
- ・サービス水準のあり方として、これまでの調査結果や意見を踏まえ、島民の生活に必要なダイヤや運営維持に見合った運賃を検討する。

# 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 離島航路構造改革事業に係る調査事業(大津島～徳山航路改善計画策定事業)の概要



## 周南市の概要

- 平成15年4月に2市2町が合併
- 人口 13万8千人(令和2年10月現在)
- 面積 656.29平方キロメートル

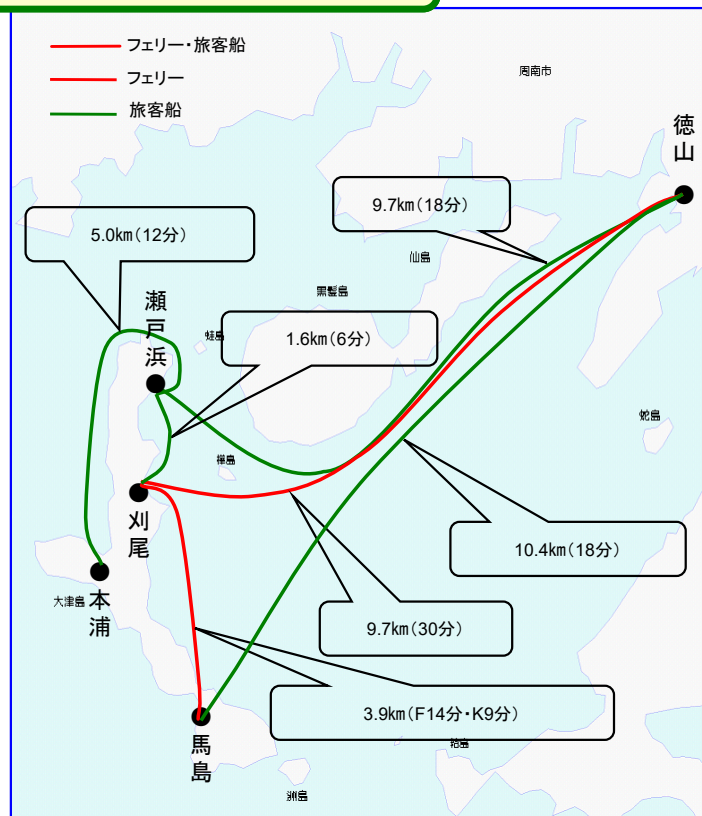
## 大津島～徳山航路改善協議会の構成員

中国運輸局、山口運輸支局、山口県、周南市  
税理士、大津島住民、大津島巡航株式会社

## 大津島～徳山航路の現状(大津島巡航株)

- 事業概要
  - 大津島(本浦・馬島・刈尾・瀬戸浜)～徳山間を7往復運航
  - 使用船舶: 3隻(旅客船1隻、フェリー1隻、予備船1隻)
- 離島の概要
  - 大津島(人口186人138世帯 高齢化率79.6%)
  - 【主な産業】農業、漁業 【島内交通】コミュニティバス
  - 【主な施設】診療所、宿泊施設

## 大津島～徳山航路の現況



## 具体的な課題・問題点

- フェリー新大津島の老朽化
- 乗船時の安全・安心の確保
- 修繕費の増大



## 調査事業の実施

## 調査事業の概要

- 航路にかかる現状整理
- 航路の将来予測・分析  
(島民アンケート、島外利用者アンケート、関係者ヒアリング)
- 代替建造、航路改善方策の検討
- 大津島～徳山航路改善計画の策定

## 協議会における検討

- 協議会の開催状況 4回開催予定
- ・第1回（令和6年3月25日）  
協議会設置、スケジュール
  - ・第2回（令和6年8月27日）  
業者決定、現状整理、事業内容
  - ・第3回（令和7年1月を予定）  
計画素案提示
  - ・第4回（令和7年3月を予定）  
計画策定

## 地域住民の意見の反映

- ・令和6年10月に住民に対するアンケートを実施し、利用状況や新船に対する希望等の調査を実施。
- ・島内関連事業者等に対してヒアリングを実施する。
- ・計画素案について島民説明会を実施する。

## 事業実施の適切性

- ・事業が計画どおり適切に実施された。
- ・大津島～徳山航路改善計画策定に必要な調査ができた。

## 調査事業の結果の概要

- ・航路にかかる現状整理を行い、課題や着眼点について把握
- ・島民アンケート、島外利用者アンケート、関係者ヒアリング等により、利用者の意見を把握。
- ・フェリー新大津島の代替建造の検討を行う。
- ・航路改善方策の検討を行う。
- ・大津島～徳山航路改善計画を策定する。



## 地域公共交通計画等の計画策定 に向けた方針等

- ・フェリー新大津島の代替建造の検討を行う。
- ・航路改善方策の検討を行う。
- ・大津島～徳山航路改善計画を策定する。